

題 目 身体活動量と遅延報酬の価値や確率・待ち時間の知覚の関係に関する
行動経済学的研究

氏 名 菅井 郁

指導教員 高橋 泰城

時間割引とは、人が時間の経過によって将来受け取る利益の価値を割り引く傾向のことを言う。将来の大きな利益を待つことができずに、直近の小さな利益を選択する人は衝動性が高いと言える。また、武術家やアスリートなどのように将来的な技術の向上や肉体の強化のために日常から鍛錬に励む人々がいる。このような人々は身体活動量が武術やスポーツに取り組んでいない人々に比べ高いと考えられる。本研究では身体活動と時間割引、時間知覚、主観確率の関係に着目した。近年の Sofis et al. (2017) の研究では身体活動による時間割引の大幅な減少が見られたことが報告されている。本研究では身体活動量の大きさが時間割引、時間知覚、主観確率のそれぞれに影響を与えているのかどうか調べることを目的として調査を行った。なお、身体活動量の算出には WHO（世界保健機関）が身体活動量の国際比較のために開発した国際標準化身体活動質問表（以下、身体活動質問表とする）を用いた。北海道大学の行動システム科学概論を履修した学生 47 人に対し、時間割引課題、時間知覚課題、主観確率課題、身体活動質問表からなる質問紙に回答してもらった。そして、身体活動と時間割引、時間知覚、主観確率の間で相関分析を行った結果、身体活動量と時間知覚、身体活動量と主観確率との間に正の相関が見られた。特に、主観確率については 5 年後と 25 年後という課題で提示した 7 つの遅延のうちで最も長い 2 つの遅延について正の相関が見られた。以上の結果から、身体活動量が時間知覚と主観確率と関係しており、日頃から運動をしている人ほど将来の報酬を得るまでの時間が長いと感じている一方で、遠い将来に報酬を得ることができると信じている傾向があるとわかった。よって、今後は、肥満やメタボリックシンドロームをはじめとする生活習慣病を予防する上で重要な要素の一つである運動やトレーニングに対する人々のモチベーションについての研究を、時間割引や時間知覚、主観確率などの観点からさらに深めていくことが期待される。